

全教北九州



検索 全教北九州

新春号

この新聞はすべての教職員に配布しています

働き方改革で労働環境は、良くなる？悪くなる？

- ▼人事評価と賃金のリンク、対象者が拡大
- ▼専科指導・一部教科担任制、来年度は導入を拡大

管理職から導入が始まった「人事評価による賃金リンク」、主幹

教諭などの教職員や職務段階別加算割合が現在8%の教職員にも拡大します。

また、今年度から一部の学校で導入されて職場の混乱を招いた「専科指導・一部教科担任制」の来年度の継続・拡大も決まっています。さらに、市議会でも問題になった教員の「一年単位の変形労働時間制」の問題など私たちの労働環境は課題や問題が山積しています。

モチベーションが上がる？

勤務成績上位と下位をどのようにか決めるのか交渉で聞いたところ、校長の人事評価を点数化し、一位から順位を決めるそうです。

対象の教職員の勤勉手当を全員減額して原資をとり、上位の教職員の勤勉手当を増額するという事です。

市教委は、モチベーションをあげるための導入と言いますが、誰が考えても教職員を選別する制度改悪とは思えません。このよ

うな較差・選別の評価方法は、職場の人間関係を悪くするだけでなく、教育への熱意や意欲の低下にもつながると市教委に抗議しました。

ブラック職場改善のためのとりくみを評価項目に

国家公務員は今春から管理職の人事評価に部下の育休取得実績を反映させるそうです。また、民間では、部下の年休取得率が管理職の評価項目となつていま

す。

「長く働き続ける」ことができる職場を実現するために今年もがんばります

全教北九州市教職員組合 執行委員長 新屋智子

あけましておめでとございます。昨年4月に施行された「働き方改革関連法」には、残業時間の上限規制や、同一労働同一賃金等が盛り込まれました。また、有給休暇取得も義務となりました。今年も働き方改革元年ともいわれられています。

市教委も「働き方」改革に力を入れていくようです。その割に「働く環境がよくなっている」「よくなりそう」という実感や期待の声は聞こえませんが。逆に「早く帰れ」と言われて「ムカツとした」とか「管理がきびしくなり、さらに息苦しい職場になった」という声の方が多く聞かれます。

全教北九州は、これまで「長く働き続けることが

できる職場」を目指して要求運動を進めてきました。この間も私たちが強く要求してきた病気休暇や子育て支援休暇などの制度を改善させることができました。『ブラック職場』と揶揄される今の働く環境をもっとよくなりたい。ゆとりをもつて子どもと関わりたい。『等教職員として当たり前』の願いを実現するためこれからも運動を続けます。

さて、この実現のためには、多くの教職員のみならずの協力もかせません。また、私たちの組合を大きくすることが、不合理で矛盾だらけの労働条件、環境整備を実現するためには必要です。ぜひ仲間になり、ともに働きやすい職場をつくりましょう。

学校も、「年休や病休がとりやすい職場にしているか」「アニバーサリー休暇を取らせているか」など働き方改革に関わる管理職の評価項目を作ることで「ブラック職場」が多少は改善されるのではないのでしょうか。

今回提案の「人事評価による賃金リンク」は、教職員や子どもを犠牲にしてまでやる意義のある制度とは到底思えません。組合として、撤回を要求します。

問題山積の「専科指導・一部教科担任制」は導入を拡大

「専科指導・一部教科担任制」は今年度小学校37校で実施されています。来年度は、導入校を拡大して実施する予定になっています。

今年度実施されている学校からは、多くの不満や問題が寄せられました。ここでも人を増やさないと無理をしてやろうとするので、様々な軋轢や問題が起こっています。

子どもと向き合う時間の確保が必要

小学校現場には、外国語科が導入され、放課後教室も定着しています。またプログラミング教育も始まります。

することが増えるばかりで、創造的な授業実践などしたくても教材研究の時間さえ取れませんが。長時間過密労働を改善し、「子どもと向き合う時間の確保」の実現こそ北九州の教育に必要なことです。

新年の「あいさつ」

全日本教職員組合(全教)
中央執行委員長 小畑雅子



新年おめでとうございます。

2019年は、子どもたちのいのち、権利、個人の尊厳を守るために、大人は何をするべきかが鋭く問われた1年でした。

国連子どもの権利委員会最終所見(2019勧告)は、「社会の競争的な性格により子ども時代と発達が悪されることなく、子どもがその子ども時代を享受することを確保するための措置をとることを日本政府に要請しました。

子どもたちには、子ども期を子どもとして豊かに過ごす権利があります。

その権利が、競争的な社会によって奪われていることが指摘されたのです。このことを真摯に受け止め、すべての子どもたちの成長・発達を保障するための学校づくりをすすめていくこと、国はそのための政策をとることが強く求められています。

私の大好きな歌の一つに、卒業式で歌われる「大きくなっても」(柚梨太郎作詞・作曲)という歌があります。

「何度もけんかして、何度も仲直り 何度も泣いたし、何度も笑ったね」で始まるこの歌は、子ども期を豊かに生きる子どもたちを、短い歌詞の中に描き出しています。

「時々かられて、時々ほめられた 時々あくびして、時々輝いた」そんな日々を過ごすうちに、「少しずつ明日が今日に近づいていく」ように、子どもたちはゆっくりと豊かに育つていきます。

しかし、今、学校では長時間過密労働のもとで、教職員が心身をすり減らしています。管理と統制の教育政策のもとで、自由を奪われ、子どもも教職員が苦しんでいます。

何よりも教職員定数を抜本的に増やすとともに、競争主義的な教育政策を改め、子どもにも教職員にもゆとりと自由を取り戻すことが重要になっていきます。

憲法をいかに、一人ひとりを大切にしたい教育を実現するために、「1年単位の变形労働時間制」の導入ではなく、「せんせい、ふやそう」の声を父母・保護者、教職員、国民の皆さんと手をつないで広げていく1年としていきたいと思います。

教育全国署名、国会に提出

北九州からは3653筆
全国では389万8834筆

全教北九州は、「北九州子どもと教育のために手をつなぐ会」と協力して、JR小倉駅、戸畑駅で3回の街頭宣伝、署名活動を行い、多くの市民のみならず、少人数学級早期実現・特別支援教育の拡充の声をかけました。

また、本年度も全市の小中学校・特別支援学校のPTA会長宛に署名用紙を発送し、多くの学校からご協力いただきました。

「ゆきとどいた教育を求める会」は12月6日、「お金の心配なく学校へいきたい」「国の責任で30人学級の実現を」と全国各地で取り組まれた「ゆきとどいた教育を求める全国署名(教育全国署名)」の集約集会を、東京で開催しました。

集会には北九州からも保護者、教職員の代表2名が参加しました。また、この日までに北九州で集められた署名3653筆をあわせて、全国の署名数は

389万8834筆となりました。

当日は、国会議員会館をまわり議員のみならず少人数学級早期実現や私学助成拡充などを訴えてきました。

教員の「働き方改革」叫ばれています。まず手をつけるべきは教員の数を増やし、クラスの子童・生徒の数を減らすことです。

充実した授業、子どもと触れ合う時間を確保するためにも国の責任による少人数学級の早期実現、支援学校・学級の教育環境の充実が必要です。

署名は現在も集約しています。お手持ちの署名は組合まで送付をお願いします。

休暇は権利、上手に活用しよう

教育委員会、各職場に

「子育て・介護 いきいきハンドブック」を配布

子どもたちが健やかに生まれ、育てられる環境の整備を目的に「次世代育成支援対策推進法」が施行されました。北九州も教職員が安心して仕事と出産・子育て・介護の両立を実現できる環境づくりを進めています。

子どもたちが健やかに生まれ、育てられる環境の整備を目的に「次世代育成支援対策推進法」が施行されました。北九州も教職員が安心して仕事と出産・子育て・介護の両立を実現できる環境づくりを進めています。

昨年10月、市教委より「子育て・介護ハンドブック」が各職場に配布されました。分かりやすくまとめられています。

休暇は権利です。上手に活用しましょう。



令和元年10月
教育委員会教職員課・教職員給与課

非常勤職員の労働条件が変更

「会計年度任用職員候補者名簿」の登録始まる

格差をつけられているようでもあり腹立たしい

登録をすませた組合員からは、「年金がすぐに貰えないので生活の僅かな足しのために希望したが、来年度から「出勤日数方式」へ変更され、夏季や年度末等の休暇期間中に勤務しない我々は、その月の給料が減額され、生活に不安を感じる。また、格差をつけられているようでもあり腹立たしい。」という声が寄せられました。

最低でも現制度の労働条件の維持・改善を

来年度から、全国の自治体の非常勤職員が「会計年度任用職員」という雇用形態に変わります。組合は、これを非常勤職員の皆さんの待遇改善の機会と捉え、市教委と交渉を重ねました。要求の重点として、「収入が現制度の総収入を下回らないこと」、さらに休暇制度など労働条件改善を要求しました。

「出勤日数方式」でも総収入は減少しないのか？

市教委からは、「現制度の年間の総収入を下回らないようにする。」との回答を得ました。ま

た、期末手当が正規と同じ月数で出されること、休暇制度についてもそれまでの制度の改善を実現することができました。

しかし、現在月額で支払われている給料が、日額の「出勤日数方式」に変更されることになれば、総収入の減額につながるおそれがあります。

市教委は「現制度の年間収入を下回らないようにする」と回答しており、任用職員希望者が不利益を受けられないよう、組合も、最低でも現制度の労働条件維持及び改善を要求しこれからも交渉を行います。

文科省は、時間外労働の上限目標を月45時間、年360時間以内とするガイドラインを、「指針」に格上げし、法的拘束力を持たせようとしています。

「アニバーサリー休暇」が自由にとれる職場になるといいな

この流れを受けて市教委は、昨年12月「年次休暇の取得促進について」の通知をだしました。

年休取得が12月現在で5日未満の先生は管理職から「5

今後も「期限付き」の撤廃をもとめて交渉します

教員増・少人数数学級実現で安心して病気休暇がとれる環境を

一昨年は全教北九州が強く要求していた「子育て支援休暇」が実現しました。この改正で、特別休暇が孫まで拡大されるとともに、以前のように子や孫の学校行事への参加(ただし小学校まで)にも取れるようになりました。

権限移譲交渉で3年延長を勝ち取る

さて「病休」については、市教委は3年前の権限移譲交渉の

際、市の行政などに勤める職員に合わせて「病気休暇は一日単位」を主張し譲ろうとしませんでした。その時は組合からの強い要求で、「一時間単位の病休取得」の制度の3年間の延長を実現させることができました。

再度3年延長を勝ち取る

全教北九州は、今年度末にこの制度の延長期限をむかえるにあたり、「病休問題」を最重要課題として交渉に臨みました。

今回も、市教委は学校現場の実情をよく知っているにも関わらず、保護者や子どもの利益に

のため、年休を積極的に活用するよう通知しています。

病気でも仕事に行かざるを得ない環境のなかで、週休日を挟んだ連続休暇などなかなか

取れません。

現実的、実効性のある環境整備をしてからの「年休消化促進」の提起をしてほしいものです。

今後も「期限の撤廃」を求め

組合からの強い要求で実現した「一時間単位の病休取得」ですが、今後も「期限付きの撤廃」を求めます。

しかし、病気でも無理をして仕事にでる、病休をとり病院で診てもらったらずに仕事にもどらなければいけないブラック職場が根本的な問題です。

働く教職員を大事にする施策を求め

教員を増やし、少人数数学級を実現し、安心して病気休暇がとれる環境づくりは「働き方改革」推進にもつながります。働く教職員を大事にする施策の実現、実行を行政に求めます。

みんなで学んでつながって 笑顔でつくろう 障害児教育の未来

全教中国・四国・九州ブロック障害児学校・学級学習交流集会 三北九州

日程

2020年2月15日(土)
14時開会
2020年2月16日(日)
12時終了予定

場所

北九州市立大学
北方キャンパス(小倉南区)

参加費

市内参加者500円

記念講演(15日15時)

保護者とのいい関係

— 障害を持つ子どもの
保護者との関係を築く —

楠凡之さん

北九州市立大学文学部教授
(臨床教育学)

分科会(16日9時30分)

第1分科会

障害児学校のとりくみ

第2分科会

障害児学校のとりくみ

第3分科会

通級指導の現状と
手作り教材

第4分科会

視覚障害者

春川つばささんのトーク

みんなで学んで つながって 笑顔でつくろう 障害児教育の未来

2020年2月15日(土)・16日(日)
北九州市立大学 北方キャンパス
北九州市小倉南区北方四丁目2番1号
参加費 市内参加者500円

北九州市立大学北方キャンパス 地図



2019年度

全日本教職員組合(全教)
中国・四国・九州ブロック

障害児学校&学級 学習交流集会 in 北九州



■ 記念講演(15日15時から17時)

保護者とのいい関係 — 障害をもつ子どもの保護者との関係を築く —
楠凡之さん くすのき ひろゆき 北九州市立大学文学部 教授(臨床教育学)

■ 分科会(16日9時30分から12時)

- 第1分科会(障害児学校)
障害児学校のとりくみ
- 第2分科会(障害児学級)
障害児学級のとりくみ
- 第3分科会(通級指導)
通級教室の現状と手作り教材
- 第4分科会(障害とともに生きる)
視覚障害者 春川つばささんのトーク

■ 日程

(2月15日)
13時30分 受付
14時 開会行事(春川つばささんの歌)
基調報告・記念講演(~17時)
18時 夕食交流会(パール・ヴェント)会費5,000円
小倉北区魚町3-1-6ヒカリテラス1F

(2月16日)
9時 受付
9時30分 分科会
12時 (終了予定)

■ おしらせ

託児はありません。
宿泊は各自で手配をお願いします。
介助が必要な方はご連絡ください。可能な範囲で対応します。
車でお越しの方は、小倉駅周辺に駐車してモノレールを利用
されることをおすすめします。
(競馬開催のための競馬場の駐車場は満車が予想されます。)

全教北九州市教職員組合(全教北九州)

電話 093(280)4776 FAX 093(280)7848 Mail kitakyu010@educas.jp

第1弾

日々の職場でのモヤモヤ、
生活のモヤモヤについて
しゃべりつながりを深めま
しょう

日程

2020年1月18日(土)
14時~16時

場所

小倉南生涯学習センター
第二和室(小倉南区若園)

全教北九州 青年部プレゼンツ

みんなでしゃべろう

仕事 子育ての事

第2弾

SHA★BE★RI★BA

日程

2020年2月22日(土)
12時

場所

野の葡萄
(黒崎メイト7階)

会費

500円

第3弾

SHA★BE★RI★BA

日程

2020年3月7日(土)
12時

場所

花葡萄
(小倉駅前アイム12階)

会費

500円

どの会場も子どもと一緒に
参加できます。都合のよい日
にお越しください。

問い合わせ

全教北九州
093(280)4776

